

『私と野球』

林 薫

【誕生～幼少期】

昭和10年（1935年）10月1日 兵庫県西脇市（当時：多可郡日野村小坂）に生まれる。

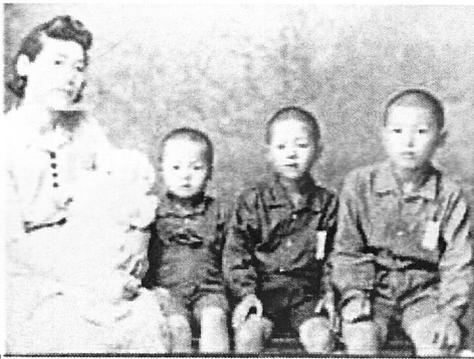
当時、幼稚園はなし。

昭和16年（1941年）小学校入学。学校まで片道1時間弱の道のりを歩いて通学。

昭和20年（1945年）終戦。10歳で野球を始める。糸を巻いて手作りしたボールを使用。

昭和22年（1947年）6年生の時に、母が布でグローブを作ってくれる。

夏は加古川の上流で泳ぎ、その帰りに春日神社の境内で草野球をする、そんな少年時代を過ごす。



左から 母かめの、妹、弟、弟、本人。戦地の父・愛次に送った写真。

【中学～高校時代】

昭和23年（1948年）西脇中学校入学。野球部に入部。初めて親にグローブを買ってもらい歓喜。

東播地区大会で優勝。また陸上競技部にも入部。陸上では東播大会のリレー選手になる。

学歴がなく苦勞した両親が、息子は良い学校に行かせてやりたいと考え、竹中組の現場監督だった中条さんに相談。ご好意で中条さんのご実家（明石）に下宿させてもらえることになり、中学3年の三学期より親元を離れ、明石から灘区の上野中学校へ通学する。

昭和26年（1951年）神戸高校入学。神戸市灘区の学校近くへ下宿先を移す。

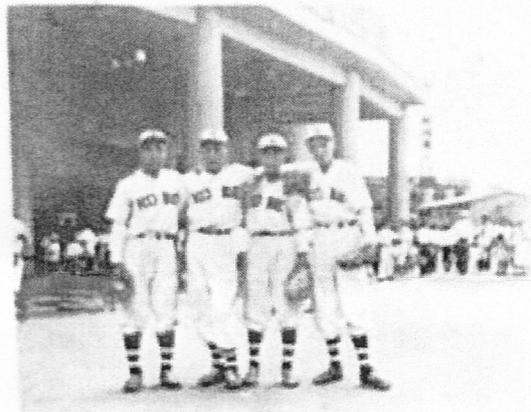
野球部に入るつもりはなく、勉学の道へ。

1年生の夏休み、クラスメイトの佐藤君に誘われ、警視庁主催・全国防犯少年野球大会（出場資格は高校1年生以下）の神戸市予選に出場し優勝。後楽園で行われた全国大会に駒を進め、優勝。ホームラン賞を受賞。大会役員でもあった当時のスター選手、阪神の藤村富美男さんと対面。

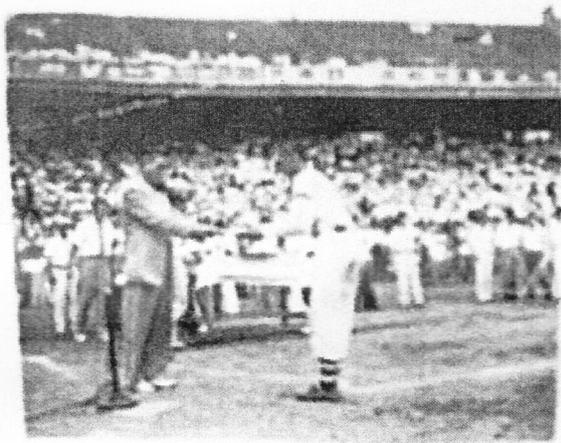
これを機に、野球部に強引に引きずり込まれる。



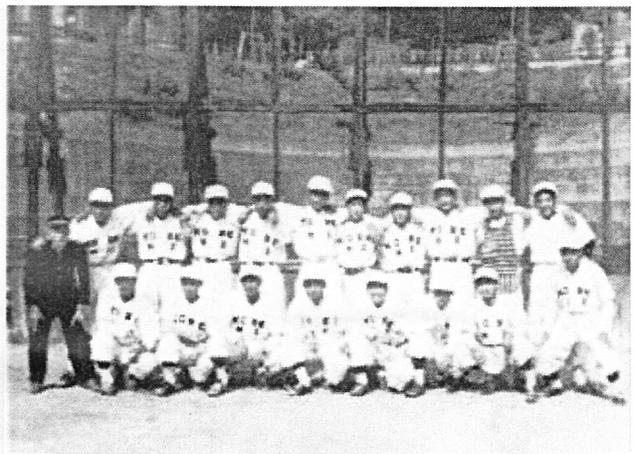
野球に引きずり込んだ佐藤君（左）と。



少年野球大会（後樂園）で。左から2人目。



ホームラン賞受賞。



神戸高校野球部 後列左から2人目。

野球部に入りながら勉強にも力を入れる。国公立大学を目指す。進学適正試験当日、高熱を出し、国公立大学受験をやむなく断念。進路に悩んでいるころ、神戸一中の先輩（中西氏：慶應水泳部）がたまたま来校。慶應義塾大学の受験を勧められる。同時に慶應義塾大学野球部の桜井マネージャーを紹介され、冬季練習（年末の4日間、高知にて）に参加。

甲子園出場の同期選手（土佐高の永野、山本、松山商業の菅原、小倉、加藤、洲本、長尾、阿部など）が約20名参加しており、この4日間の間に桜井マネージャーから英語のテストをされる。

【大学時代】

昭和29年（1954年）慶應義塾大学 法学部政治学科に合格し入学。

體育會野球部 第二合宿所（小机）に入る。2年生から第一合宿所（日吉）に移動。

当時、野球部と蹴球部の合宿所は、別棟であったが風呂と食堂は共用。食糧事情はまだ悪く定時に食べないと、あるはずのドンブリ飯が誰かに食べられてしまっていることも日常茶飯事。

甲子園出場有名選手であった永野は1年生からユニフォームを着て、藤田元司投手の捕手として起用される。

2年生春、初めてユニフォームを着用。東大戦8対0と大差がついた後に初登板。2イニングを投げる。当時の監督は阪井盛一氏。

3年生秋、9シーズン振りに勝ち点6で完全優勝。防御率1.34、6勝0敗でベストナインに選出される。

4年生春、立教大が優勝。当時の立教には杉浦、長嶋、本屋敷といった錚々たるメンバーが勢揃い。登板した慶立戦は、1勝2敗の戦績。林0-1杉浦、巽・林2-1栞藤、林・巽1-2杉浦、

4年生6月6日 慶應大学病院で健康診断を受けた後、主将の黒松宅で皆で御馳走になる。降雨の中、黒松家の運転手さんに車で合宿所まで送ってもらう途中、交通事故にあう。

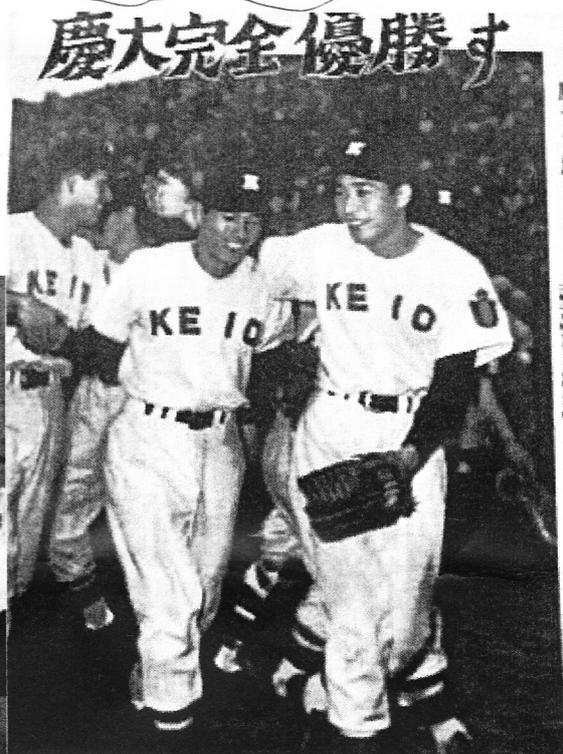
頭部、腰などを強打し、全治1か月と診断される。

4年生秋、慶立戦2回戦。長嶋茂雄に8号ホームランを打たれる。

以下、慶應義塾體育會野球部史から引用。

「1回戦を失った慶應は、エース林を立てて立教を完封しようとかかった。林はベンチの期待に応えて、4回まで12人の打者を打ち取り、快調のピッチングを示した。一方、不調を伝えられる杉浦に代わってマウンドに登った栞藤に対して、やや慶應は押し気味に試合を進めた。しかし5回、立教の長嶋は1-3のカウントのあと、内角低目の球を左翼席に8号ホームナーしてこの均衡を破った。」

3年秋早慶戦にて勝利し、完全優勝。右は衆樹主将。



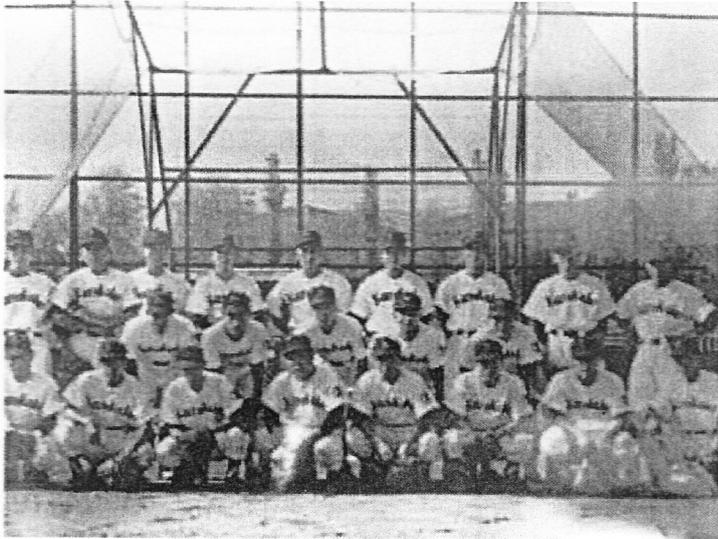
4年春早慶戦を前に合宿所に陣中見舞いに訪れた藤田元司さんと。

左から永野、黒松、藤田さん、池西、林

【社会人時代】

昭和 33 年 鐘淵化学工業株式会社入社。社会人野球を 3 年間継続。

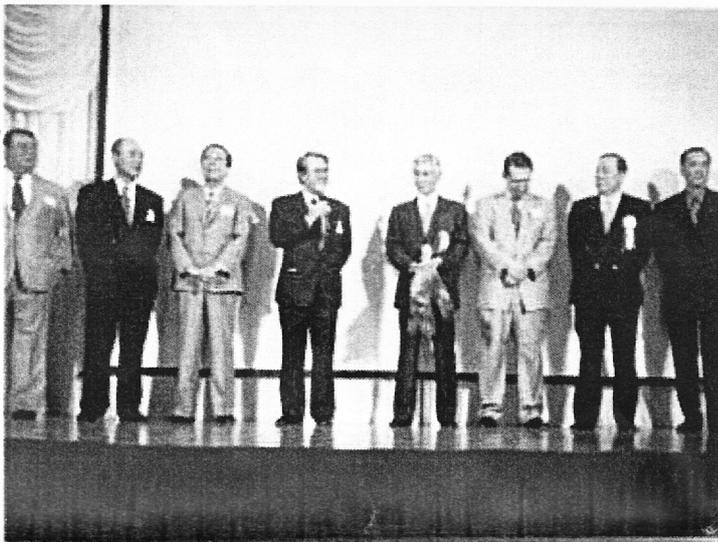
顧客訪問の先々で、先輩や上司に「長嶋にホームランを打たれた林です」と紹介される日々を送る。



前列右から 2 人目が本人。前列中央は山本治氏（キャプテン）

【最近は、、、】

燦々会と称して、六大学野球部の同期が集い、ゴルフや食事会で昔話に花を咲かせてきたが、寄る年波には勝てず、散会。



1995 年 杉浦忠氏野球殿堂入りを祝う会で。

左から森（早稲田）、林（慶應）、近藤（明治）、本屋敷（立教）、杉浦（立教）、日高（東大）、高橋（立教）、長嶋（立教）

2015 年 12 月、東京六大学野球連盟結成 90 周年記念祝賀会で長嶋茂雄氏と久しぶりに再会。固い握手をして歓談。